

令和5年新年市民祝賀会 市長挨拶

新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。御参会の皆様におかれましては、新たな希望を胸に、穏やかな新春をお迎えになられたことと存じます。

皆様には、市政各般に亘り、今日まで御支援・御協力を賜っておりますことに、先ずもって感謝を申し上げます。

また、日本で初めての確認から4年目を数える新型コロナウイルス感染症は第8波へ入り、県内すべての医療圏域で感染者数や医療負荷が高い水準となっています。医療・福祉の現場をはじめ、最前線で御奮闘いただいております全ての方々に対しまして、敬意を表しますとともに心から感謝を申し上げます。本当に日々、ありがとうございます。

さて、月日が経つのは早いもので、西条市政の舵取りを仰せつかり6年余りが経過し、2期目も折り返してございます。静かなる危機と言われる「人口減少」から派生する様々な地域課題に加え、エネルギー分野を含め、地域経済まで影響が及んでいるロシアによるウクライナ侵攻、更には、新型コロナウイルスパンデミックからエンデミックに向けた新しい生活様式など、環境の変化が激しい世の中であって、私は将来世代へ確かな未来を残すためのまちづくりに志を持って取り組んでまいりました。

引き続き、時機を逸することなく「残すべきもの」と「変えるべきもの」を判断し、「持続可能なまち西条」の将来を担う子や孫世代にバトンを繋ぐべく強い覚悟を持ってチャレンジしてまいりたいと考え

てございます。

本市は、先に述べた社会環境にあつて、SDGs（持続可能な開発目標）達成のため積極的に取り組む都市として「SDGs 未来都市」に選定され、「自治体SDGs モデル事業」の動きは、今や全国から注目をされております。市民の皆様や企業・団体と共につくる、共創しながら「いっしょにやろや ちょっとずつ」を合言葉に、未来に向けて歩みを始めております。

本年は「SDGs × DX」の取組みを本格化させ、その理念をしっかり融合させることで、生き生きと輝ける西条の実現に向けて、先進的な取組みを展開してまいりたいと思っております。

その核となるのが「LOVE SAIJOポイント」です。人と人とがつながり合うとともに、SDGsにおける環境・社会・経済、そして、西条市独自の地域消費を加えた4側面において、好循環を生む住民参加型のまちづくりを推し進めてまいります。

また、本市は、他の市町に先駆けて移住推進施策に特に力を入れて取り組んでまいりました。本日発売されました、株式会社宝島社出版の「田舎暮らしの本」で発表された「第11回住みたい田舎ベストランキング」では、ターゲットとしている若者・単身者部門における全国1位の座を、残念ながら、お隣の町、今治市に譲ることとなりましたが、引き続き、人口減少対策の一環として移住推進施策に取り組むとともに、豊かな自然や全国でも稀な自噴井「うちぬき」、その恵みで生まれる農作物など、本市の魅力を全国に発信し、活動人口の拡大やふるさと納税の獲得、更には観光振興に努め、人口減少社会にあつても地域活力の維持・向上に繋げてまいります。勿論、「地域活力の

源泉は産業に有り」このことも忘れてはいません。

これまで先送りされてきた課題に加え、少子高齢化社会における地域コミュニティや地域公共交通の在り方、医師不足が主原因の地域医療や救急医療の確立、老朽化が進む公共施設の再編整備、複雑多様化する環境衛生の問題、激甚化・多発する自然災害への対応等、市民の命や暮らしに直結する課題が山積しています。

私は、先が読めないからと言って立ち止まることはしません。積極的に未来を予測し、熟慮断行することが重要であると考えておりまして、現状の危機感を抱きつつも、これを打破すべく、本日お越しをいただいております国会議員の先生方、県会議員の先生方、市議会議員の皆様はもとより、市民の皆様との共創により、人と活動が好循環を生む「持続可能なまち西条」の実現に向けて、引き続きチャレンジし、今年の干支である癸卯の年にふさわしい、これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍する1年となるよう、尽力してまいることをお誓い申し上げたいと思います。

結びになりますけれども、市民の皆様にとって令和5年が健康で幸多き1年となりますよう心からお祈り申し上げまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

本年もどうか、よろしくお願い申し上げます。

令和5年1月4日

西条市長 玉井 敏久